

松本市の景気動向

— 中小企業景気動向基本調査 —

【平成27年3月】

■調査概要（データ対象期間：平成27年3月1日～3月31日）

- 調査期間：平成27年3月27日～4月21日
- 調査対象：市内中小企業200企業に対して郵送によるアンケート調査
- 回収状況：建設業16企業、製造業20企業、卸売業15企業、小売業30企業
飲食業12企業、サービス40企業（運輸、不動産仲介業を含む）
<合計133企業>
- 調査項目：3月の売上・仕入・営業利益・受注量・受注単価・販売(客)数・販売(客)単価
状況向こう3ヶ月の業況見通し（DI値を集計）

(注)DI (Diffusion Index)値は、売上などの各項目についての判断の状況を示す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※DI=(増加・好転などの回答割合)-(減少・悪化などの回答割合)

松本市・松本商工会議所

概況

業況DIはマイナス幅が拡大・水準DIはマイナス幅が縮小

1. 業況判断

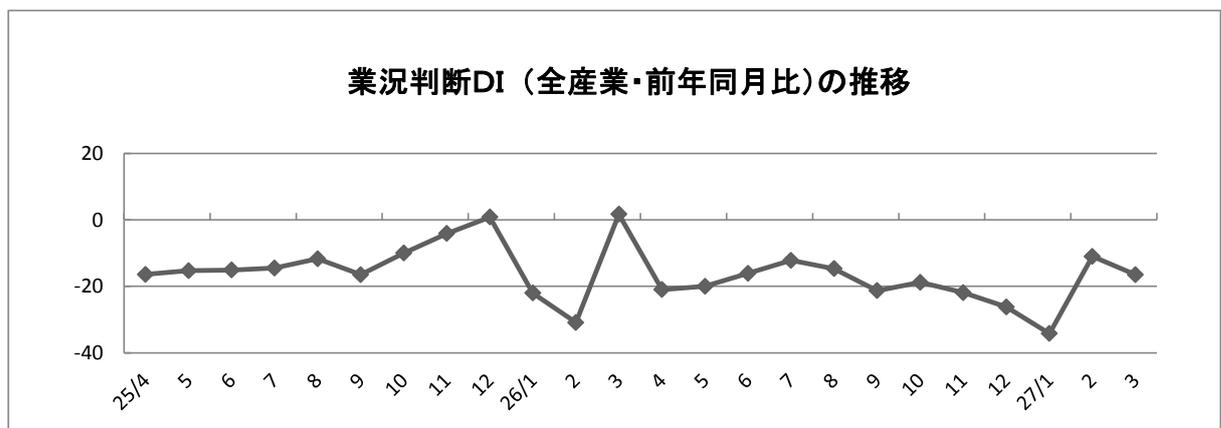
- 全産業合計の業況DI（前年同月比ベース）は、前月（▲11.0）よりマイナス幅が5.5ポイント拡大し、▲16.5となった。業種別では、飲食業はプラス幅が縮小し、サービス業はマイナス幅が縮小した。小売業、卸売業、建設業、製造業はマイナス幅が拡大した。
- 全産業合計の水準DIは、前月（▲23.6）よりマイナス幅が8.5ポイント縮小し、▲15.1となった。業種別では、飲食業がマイナスから0になった。サービス業、製造業、卸売業、建設業はマイナス幅が縮小し、小売業はマイナス幅が拡大した。

業況判断DI

	業況[前年同月比]				今月の水準			
	好転%	不変%	悪化%	DI	良い%	普通%	悪い%	DI
合計	12.8 (18.1)	57.9 (52.8)	29.3 (29.1)	▲16.5 (▲11.0)	13.5 (13.4)	57.9 (49.6)	28.6 (37.0)	▲15.1 (▲23.6)
建設業	6.3 (18.8)	56.2 (43.7)	37.5 (37.5)	▲31.2 (▲18.7)	0.0 (6.3)	75.0 (43.7)	25.0 (50.0)	▲25.0 (▲43.7)
製造業	0.0 (21.7)	70.0 (43.5)	30.0 (34.8)	▲30.0 (▲13.1)	15.0 (13.0)	65.0 (52.2)	20.0 (34.8)	▲5.0 (▲21.8)
卸売業	6.7 (12.5)	53.3 (50.0)	40.0 (37.5)	▲33.3 (▲25.0)	13.3 (12.5)	53.4 (37.5)	33.3 (50.0)	▲20.0 (▲37.5)
小売業	16.7 (23.1)	46.6 (38.4)	36.7 (38.5)	▲20.0 (▲15.4)	20.0 (26.9)	33.3 (23.1)	46.7 (50.0)	▲26.7 (▲23.1)
飲食業	25.0 (36.4)	58.3 (54.5)	16.7 (9.1)	8.3 (27.3)	25.0 (9.1)	50.0 (63.6)	25.0 (27.3)	0.0 (▲18.2)
サービス業	17.5 (8.6)	62.5 (74.3)	20.0 (17.1)	▲2.5 (▲8.5)	10.0 (8.6)	70.0 (71.4)	20.0 (20.0)	▲10.0 (▲11.4)

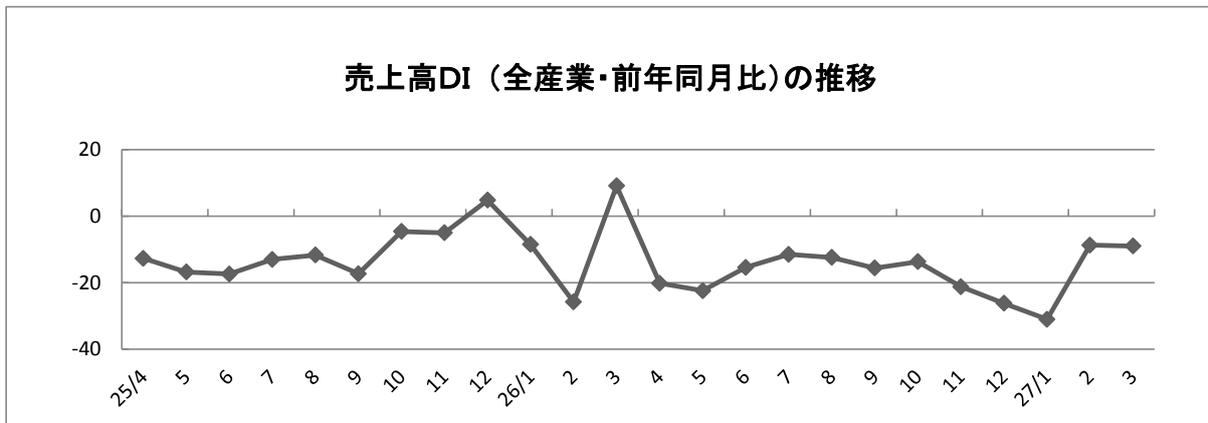
()内は前月データ

※「業種[前年同月比]」・・・前年同月の業況との比較による回答の集計
「今月の水準」・・・事業主の方の主観による回答の集計



2. 売上高DI（前年同月比）

○全産業合計の売上高DIは、前月（▲8.7）よりマイナス幅が0.3ポイント拡大し、▲9.0となった。業種別に見ると、サービス業がマイナスからプラスに転じ、飲食業のプラス幅が縮小した。建設業はマイナス幅が縮小し、小売業、製造業、卸売業はマイナス幅が拡大した。

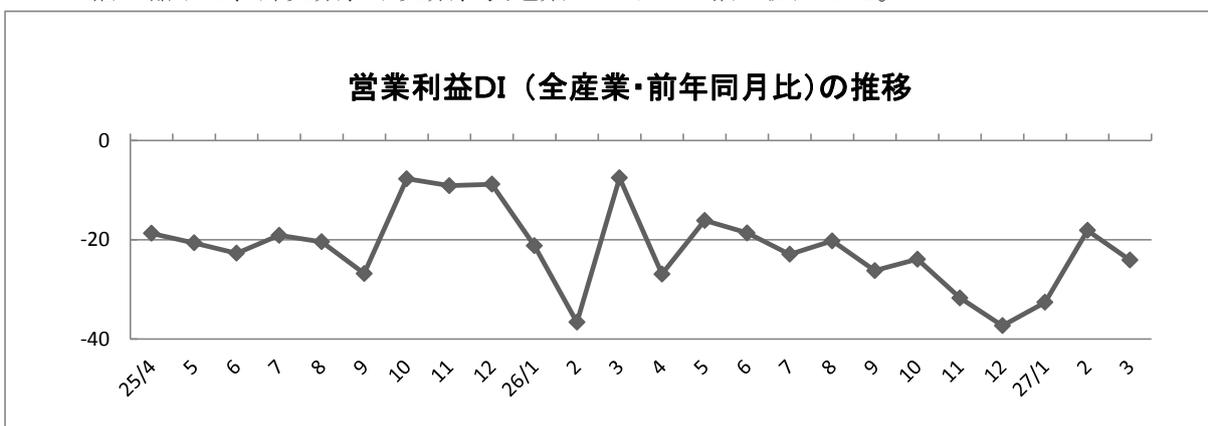


【対前年同月比売上高業種別DIの推移】

	26年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月
全 体	9.1	▲20.2	▲22.4	▲15.4	▲11.5	▲12.4	▲15.6	▲13.7	▲21.2	▲26.2	▲31.0	▲8.7	▲9.0
建設業	33.3	14.3	▲23.5	0.0	12.5	5.9	▲14.3	▲13.4	▲6.7	▲17.7	▲37.5	▲31.3	▲6.2
製造業	0.0	▲45.5	▲50.0	▲30.0	▲19.0	▲28.6	▲10.5	▲23.5	▲33.3	▲19.1	▲30.0	▲13.0	▲25.0
卸売業	50.0	▲23.5	▲25.0	5.9	▲12.5	▲5.9	0.0	▲12.5	▲43.8	▲31.3	▲25.0	▲6.3	▲26.7
小売業	26.1	▲40.9	▲38.1	▲24.0	▲29.2	▲7.7	▲37.0	▲27.0	▲29.2	▲50.0	▲48.3	▲11.5	▲16.6
飲食業	▲45.4	10.0	0.0	▲50.0	▲10.0	▲44.4	▲50.0	▲20.0	▲30.0	0.0	▲22.2	27.3	8.3
サービス業	▲8.3	▲11.7	▲2.5	▲5.7	▲5.8	▲10.2	0.0	3.1	▲5.0	▲24.3	▲19.5	▲5.7	5.0

3. 営業利益DI（前年同月比）

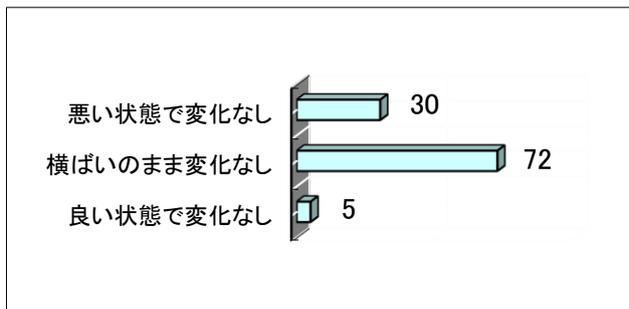
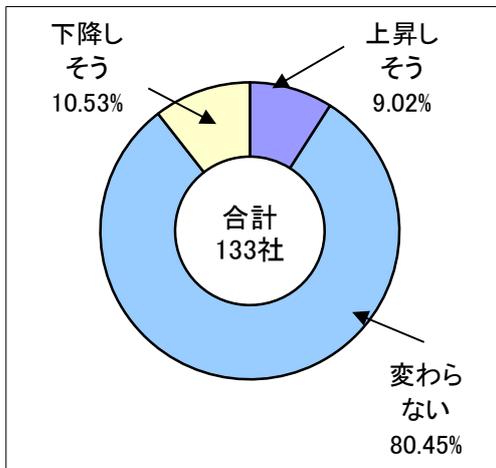
○全産業合計の営業利益DIは、前月（▲18.1）よりマイナス幅が6.0ポイント拡大し、▲24.1となった。業種別に見ると、飲食業がプラスから0になった。サービス業、建設業はマイナス幅が縮小し、卸売業、小売業、製造業はマイナス幅が拡大した。



【対前年同月比営業利益業種別DIの推移】

	26年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月
全 体	▲7.5	▲26.9	▲16.1	▲18.6	▲22.9	▲20.2	▲26.2	▲23.9	▲31.7	▲37.3	▲32.6	▲18.1	▲24.1
建設業	▲6.7	▲21.4	▲5.9	▲13.4	▲12.5	▲17.6	▲42.9	▲33.3	▲13.4	▲35.3	▲37.5	▲31.3	▲25.0
製造業	▲10.0	▲40.9	▲41.6	▲30.0	▲33.3	▲38.1	▲26.3	▲23.5	▲50.0	▲28.6	▲35.0	▲26.1	▲45.0
卸売業	18.8	▲23.6	▲31.3	▲11.7	▲18.7	0.0	▲20.0	▲25.0	▲56.3	▲62.5	▲37.5	▲31.2	▲40.0
小売業	4.4	▲40.9	▲19.0	▲20.0	▲33.3	▲15.4	▲40.7	▲27.0	▲29.2	▲41.7	▲34.5	▲19.3	▲30.0
飲食業	▲54.5	0.0	▲16.6	▲50.0	▲20.0	▲44.4	▲60.0	▲30.0	▲40.0	▲36.4	▲33.3	27.3	0.0
サービス業	▲11.1	▲20.6	2.5	▲5.7	▲17.1	▲17.9	▲2.7	▲15.1	▲20.0	▲29.7	▲25.0	▲14.3	▲10.0

◇ 向こう3ヶ月の見通し ◇



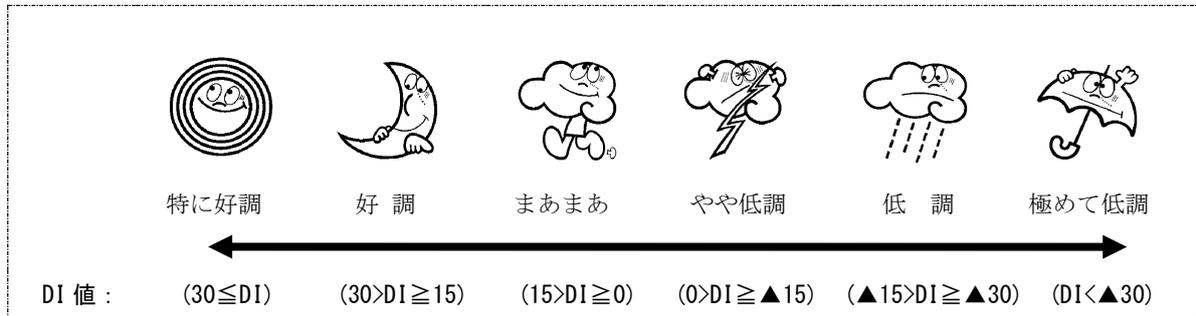
○平成27年4月～平成27年6月の見通しDIは、「上昇しそう」が前月の調査に比べ5.15ポイント減少し9.02%、「下降しそう」が4.23ポイント増加し10.53%となった。業種別の見通しDIは建設業(6.3)、製造業(▲20.0)、卸売業(▲20.0)、小売業(6.7)、飲食業(16.7)、サービス業(0)であった。

➡「上昇しそう」では、「今後の受注単価については昨年を上回る見通しのため」(建設業)、「観光地、観光ルートの冬期閉鎖が解除されるため」「新年度になり、学校事業が活気づくため」(小売業)、「花見、ゴールデンウィークがあり、修学旅行生も増えるため」(飲食業)、「自社キャンペーンを実施するため」(サービス業)といった声が寄せられた。

➡「下降しそう」では、「年度代わりのため」(製造業)、「取引先店舗が減るため」「まだまだ不安定要素があるため」(卸売業)、「選挙がある時は景気が落ち込む」「予想、見込みが立たない」(小売業)、「年度初めはお弁当の発注量が激減する」(飲食業)、「宿泊は好調に推移の見込みだが、大型宴会・婚礼数が若干減の見込み」(サービス業)といった声が寄せられた。

業種別景況

<DI 君の景況判断>



1. 建設業



【項目別DIの推移】

	26年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月
売上高	33.3	14.3	▲ 23.5	0.0	12.5	5.9	▲ 14.3	▲ 13.4	▲ 6.7	▲ 17.7	▲ 37.5	▲ 31.3	▲ 6.2
受注量	26.7	▲ 7.2	▲ 29.4	▲ 13.4	6.3	▲ 11.7	▲ 21.5	▲ 33.4	▲ 13.3	▲ 47.0	▲ 43.8	▲ 31.2	▲ 18.8
受注単価	▲ 13.3	0.0	▲ 5.8	▲ 6.6	▲ 12.5	▲ 11.7	▲ 14.3	▲ 26.6	0.0	▲ 17.6	▲ 18.7	▲ 6.3	▲ 6.2
営業利益	▲ 6.7	▲ 21.4	▲ 5.9	▲ 13.4	▲ 12.5	▲ 17.6	▲ 42.9	▲ 33.3	▲ 13.4	▲ 35.3	▲ 37.5	▲ 31.3	▲ 25.0
見通し	▲ 6.7	▲ 7.2	▲ 11.8	0.0	▲ 18.8	▲ 11.8	0.0	▲ 6.6	0.0	▲ 5.9	▲ 6.3	6.2	6.3

<経営者の目・見方・etc>

管工事

・年末、一時的な完成があったので、その反動か4月以後の受注が少ない。見込みは今のところわからないが、昨年より減少する可能性がある。

建築工事

・3月末以降の公共の工事が少ない。

鉄工

・関東物件が良い。受注単価も上がっている。

・昨年後半に引き続いて、今年の年初の業績も上向いていると認識していたが、思いのほか数字が伴っていない状況である。しかし、今後の受注工事の単価は昨年を上回り、工場の運用状況によって好転していくと思われる。このような中で、2年後、3年後の中期的な展望を描いていきたいと考えている。

電気工事

・3月に入り少し受注量が増加してきた、新年度に期待したい。

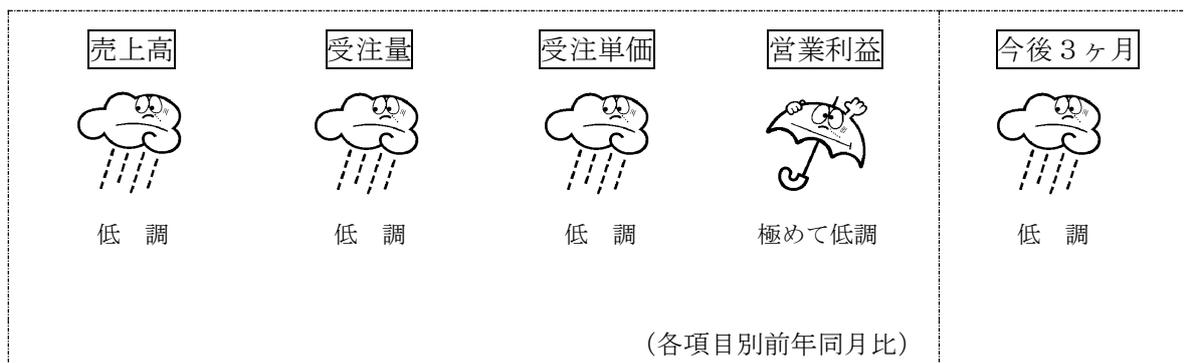
土木工事

・これほど暇な3月は過去に無い。あらためて消費税増税の影響の恐ろしさを噛みしめている。

・技術者が不足気味である。また、受注単価より資材の価格が高い。

・今年は公共工事の前倒しが少なく、国の予算成立も遅れることから、第3四半期は我慢の時と思う。

2. 製造業



【項目別DIの推移】

	26年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月
売上高	0.0	▲ 45.5	▲ 50.0	▲ 30.0	▲ 19.0	▲ 28.6	▲ 10.5	▲ 23.5	▲ 33.3	▲ 19.1	▲ 30.0	▲ 13.0	▲ 25.0
受注量	▲ 5.0	▲ 40.9	▲ 45.8	▲ 25.0	▲ 19.1	▲ 23.8	▲ 10.5	▲ 23.5	▲ 44.5	▲ 19.0	▲ 35.0	▲ 17.4	▲ 30.0
受注単価	▲ 30.0	▲ 22.8	▲ 29.2	▲ 25.0	▲ 23.8	▲ 23.8	▲ 31.6	▲ 23.5	▲ 22.2	▲ 23.8	▲ 20.0	▲ 21.7	▲ 30.0
営業利益	▲ 10.0	▲ 40.9	▲ 41.6	▲ 30.0	▲ 33.3	▲ 38.1	▲ 26.3	▲ 23.5	▲ 50.0	▲ 28.6	▲ 35.0	▲ 26.1	▲ 45.0
見通し	▲ 20.0	▲ 18.2	▲ 8.3	▲ 5.0	▲ 9.5	▲ 23.8	▲ 10.5	▲ 11.7	0.0	0.0	▲ 5.0	▲ 4.4	▲ 20.0

<経営者の目・見方・e t c>

印刷

・同業者が3月に倒産した。

菓子

・前年3月(消費増税前)と比べると注文の勢いは悪いが売り上げは維持できた。しかし、4月の売上は落ちると予想される。消費の力は弱く、景気回復を報道する大手新聞が信じられない。

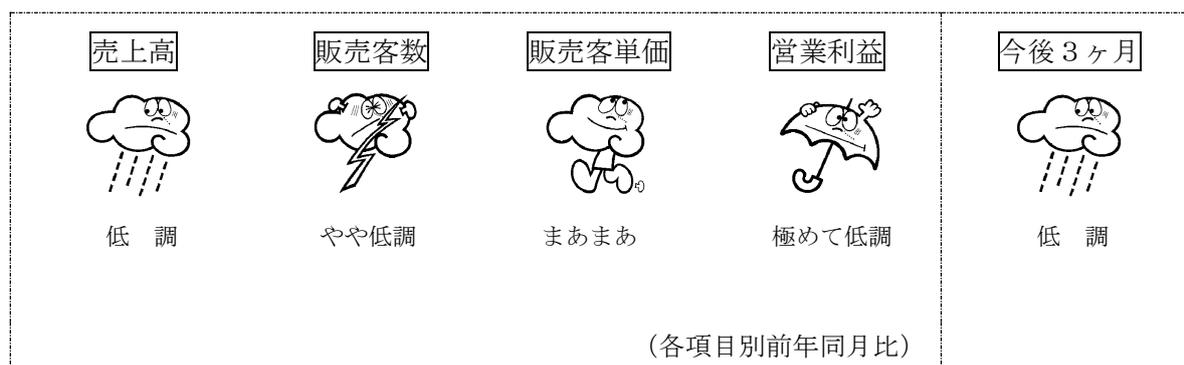
金属塗装

・売上、受注は昨年比同程度だったが、材料、燃料費等が上昇しているのに、受注単価は低めで採算は悪化している。

食品・飲料

・原材料高騰により値上げ交渉を進めているが、時間がかかりそう。

3. 卸売業



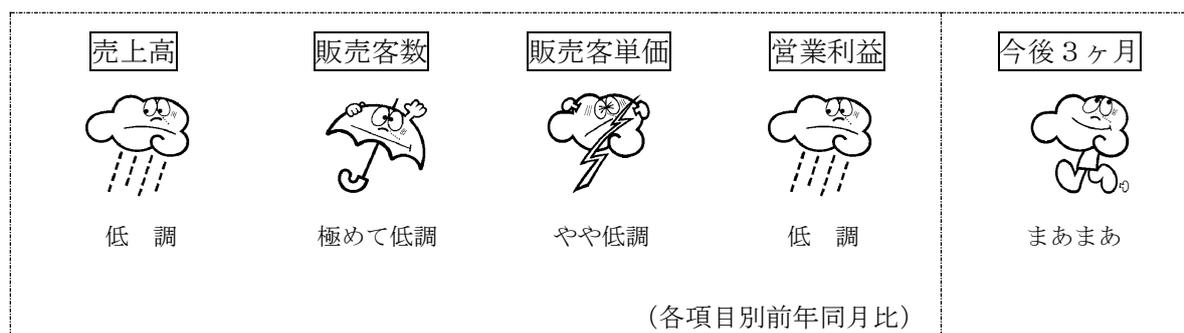
【項目別DIの推移】

	26年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月
売上高	50.0	▲ 23.5	▲ 25.0	5.9	▲ 12.5	▲ 5.9	0.0	▲ 12.5	▲ 43.8	▲ 31.3	▲ 25.0	▲ 6.3	▲ 26.7
販売客数	12.5	▲ 5.8	▲ 25.0	▲ 11.7	▲ 12.5	▲ 23.5	▲ 13.3	▲ 12.5	▲ 18.7	▲ 12.5	▲ 18.7	▲ 6.2	▲ 13.3
販売客単価	▲ 6.2	▲ 11.7	▲ 6.3	▲ 17.6	▲ 25.0	▲ 17.6	▲ 20.0	▲ 25.0	▲ 12.5	▲ 18.8	▲ 18.7	▲ 12.5	0.0
営業利益	18.8	▲ 23.6	▲ 31.3	▲ 11.7	▲ 18.7	0.0	▲ 20.0	▲ 25.0	▲ 56.3	▲ 62.5	▲ 37.5	▲ 31.2	▲ 40.0
見通し	▲ 50.0	17.6	0.0	5.9	▲ 6.2	▲ 11.8	0.0	0.0	▲ 6.3	▲ 12.5	0.0	0.0	▲ 20.0

<経営者の目・見方・etc>

- 機械工具
 - ・昨年3月は、4月の消費税の関係で売り上げが前倒しになったため膨らんだ。今年3月の売上は良かったが昨年同月比には及ばなかった。
- 金属製品
 - ・年度末で、工事の継続案件が多少残ってはいるものの、大口案件は全て清算となる。新年度となり、土木・建築関係は夏以降活発になってくると思われる。
- 食品総合
 - ・仕入商品の値上げラッシュで、利益確保が気がかりである。
- 青果
 - ・野菜は全国的に天候が続かない事もあり、出荷が安定しない商品が多かった。特に九州方面での徐雪や低温も影響し、出荷減の単価高となった。果実はイチゴ・リンゴ・雑柑橘含め入荷の少ない物が多く、単価高ではあったが、全体をカバーするには至らなかった。野菜・果実共に天候による入荷減の単価高であった。
- 惣菜
 - ・原材料価格高騰による値上げをしたいが、なかなかできずにいるので収益が出ない。
- 土産品
 - ・例年春休みは購買が増える状況ですが今年はよくない。長野県内では長野駅だけが好調で、松本の観光は全国と比較しても良い波がきていない。

4. 小売業



【項目別DIの推移】

	26年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月
売上高	26.1	▲ 40.9	▲ 38.1	▲ 24.0	▲ 29.2	▲ 7.7	▲ 37.0	▲ 27.0	▲ 29.2	▲ 50.0	▲ 48.3	▲ 11.5	▲ 16.6
販売客数	13.1	▲ 59.1	▲ 42.8	▲ 24.0	▲ 25.0	▲ 15.4	▲ 44.5	▲ 42.4	▲ 25.0	▲ 37.5	▲ 41.4	▲ 30.8	▲ 40.0
販売客単価	0.0	▲ 18.2	▲ 4.8	▲ 4.0	▲ 8.4	▲ 11.5	▲ 33.3	▲ 11.5	▲ 20.8	▲ 20.8	▲ 31.1	3.8	▲ 13.3
営業利益	4.4	▲ 40.9	▲ 19.0	▲ 20.0	▲ 33.3	▲ 15.4	▲ 40.7	▲ 27.0	▲ 29.2	▲ 41.7	▲ 34.5	▲ 19.3	▲ 30.0
見通し	▲ 73.9	▲ 4.5	▲ 14.2	▲ 8.0	4.1	▲ 3.8	▲ 3.7	▲ 7.7	0.0	▲ 8.3	6.9	3.9	6.7

<経営者の目・見方・etc>

ガラスサッシ

・住宅エコポイントが始まったが、前回のような引き合いがない。おそらく必要と感じていた人は前回済ましてしまっているのではないかと。

ショッピングセンター

・前年の消費税増税前の駆け込み需要の反動と休日日数減も重なり全国的に低調な月となった。4月以降の消費マインド回復に期待したい。

パン

・送別会などのイベントに利用していただき、うまく乗り切る事ができた。しかし原料値上げが止まらず今後が不安である。

印章

・相変わらず財布の紐は固く売上げが続かない。近年は変に凝ったり、デザイン化された印章が出回り首を傾げてしまう。何とかしないと印章文化がおかしくなってしまう。桜の便りと同時に気温も上る4月に期待したい。

・徐々に忙しい3月だった。松本山雅J1昇格で、街中を歩くアウェーサポーターが増えた。2週間おきのホームゲームの日をビジネスチャンスと捕えたい。

化粧品

・6月に販売される松本プレミアム商品券に期待している。

自転車

・同業者が2軒も廃業した。1軒は高齢の為であるが、技術を持った人が次へへ継承してほしい。口でものを売るのでなく技術でお客様へ販売したい。

住宅機器

・やっと少し見積が増えてきた。

書籍

・数年前までは3月は12月に次いで売上が多い月だったが、最近では売上が悪い方の月になった。時代に合わせた戦略を立て、実行していきたい。

・入園入学セールで、DMを出したので少しは反応があったが、なかなかかつてのような売上げをあげる事ができなかった。個人消費が上昇してこない。

生鮮食品

・個人消費があまり良く無く、入試・卒業式とお金がかかるのか、全体的に静かであった。しかし、年度末のためか、会社関係の注文が多く助かった。

陶磁器

・周年記念イベントのおかげで、駆け込みのあった昨年並みの実績を残すことができたが、思ったほど客数が伸びなかった。カタクラモールが閉店し、どのような形であれ再オープンの際には大きな影響をうける。閉店中に出来ることをしたい。

文具

・年度末と選挙で、大きな需要期をむかえたが動きは良くなかった。また、単価が安値方向にある為、あまり利益がとれなかった。

味噌・しょうゆ

・相変わらず原料の大豆価格が高い。

5. 飲食業



【項目別DIの推移】

	26年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月
売上高	▲ 45.4	10.0	0.0	▲ 50.0	▲ 10.0	▲ 44.4	▲ 50.0	▲ 20.0	▲ 30.0	0.0	▲ 22.2	27.3	8.3
販売客数	▲ 45.4	10.0	▲ 16.6	▲ 50.0	▲ 10.0	▲ 33.3	▲ 50.0	▲ 20.0	▲ 30.0	0.0	▲ 11.1	36.4	8.3
販売客単価	▲ 45.5	0.0	▲ 8.3	▲ 25.0	▲ 10.0	▲ 22.2	▲ 40.0	▲ 30.0	▲ 50.0	▲ 18.2	▲ 11.1	▲ 9.1	▲ 8.4
営業利益	▲ 54.5	0.0	▲ 16.6	▲ 50.0	▲ 20.0	▲ 44.4	▲ 60.0	▲ 30.0	▲ 40.0	▲ 36.4	▲ 33.3	27.3	0.0
見通し	▲ 18.2	30.0	▲ 16.7	8.3	0.0	▲ 22.2	▲ 50.0	▲ 40.0	▲ 30.0	▲ 27.3	0.0	36.4	16.7

<経営者の目・見方・e t c>

- カレー
 - ・前半は静かめだったが、中旬以後は週末を中心に人出が多かった。暖かな日は特に多かったように思う。3月は前半と同じ位で終わった。
- そば
 - ・3月中旬位から観光客も増え始め、送別会等も例年に比べ増えて全体的に良かった。しかし景気の見通しが不透明な所が気になる。
- レストラン
 - ・物価の上昇に伴い来店頻度が減少傾向である。
- 郷土料理
 - ・春休みに入っても平日は盛り上がりには欠け静かだった。北陸新幹線の影響もあるが、善光寺ご開帳の相乗効果も期待したい。
- 寿司
 - ・3月迄の期間限定メニュー「ふぐコース」が終わった。なごりをおしむかのように今月は予約が多かった。”活ふぐ”を料理する本格的なコースが好評を得たようだ。だいぶ暖かくなり人の動きも良くなってきたので、景気回復とまでは行かぬにしろ、全体的には良い月であったと思う。

6. サービス業

売上高  まあまあ	販売客数  やや低調	販売客単価  やや低調	営業利益  やや低調	今後3ヶ月  まあまあ
(各項目別前年同月比)				

【項目別DIの推移】

	26年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	27年1月	2月	3月
売上高	▲8.3	▲11.7	▲2.5	▲5.7	▲5.8	▲10.2	0.0	3.1	▲5.0	▲24.3	▲19.5	▲5.7	5.0
販売客数	▲8.3	▲20.6	▲2.5	▲8.6	▲11.4	▲7.7	0.0	▲21.2	▲15.0	▲21.6	▲25.0	▲11.4	▲2.5
販売客単価	▲5.6	▲14.7	▲5.0	▲8.6	▲2.8	▲5.1	▲5.4	▲6.1	▲10.0	▲5.4	▲11.1	▲11.4	▲2.5
営業利益	▲11.1	▲20.6	2.5	▲5.7	▲17.1	▲17.9	▲2.7	▲15.1	▲20.0	▲29.7	▲25.0	▲14.3	▲10.0
見通し	0.0	▲5.9	10.0	0.0	2.9	0.0	0.0	▲6.1	▲2.5	0.0	2.7	14.2	0.0

<経営者の目・見方・etc>

- ソフトウェア
 - ・主に輸出、国内需要中心のユーザについて、いくつか引合が出ている話を聞く。県内システム業界もボリュームのある案件を受託できるよう共同で営業を図る動きもあるようだが、システム化予算がそれほど上昇しているわけではないので、受注に結び付けるのは難しそうだ。
- タクシー
 - ・寒さも和らいできて街中では外国人を含む観光客が増えてきた。
- マッサージ
 - ・人出不足感は解消されてきたが、今後はより質の高い人材の確保が重要になってくる。そのためにも働きやすい職場環境を整える事が大切だ。
- ペットサービス
 - ・3月は例年並みの来店数及び売上げだった。冬から春へと気候もよくなり来店数も伸びてきている。
- ホテル
 - ・昨年に比べて団体、インバウンド、宴会、婚礼全てに於いて好調である。昨年のような大雪を懸念し2月を避けた団体が3月へ月ずれを起こした可能性がある。北陸新幹線延伸の大きなインパクトは無かった。
 - ・団体・個人ともに出足が悪い。4月、5月に期待したい。
- 温泉旅館
 - ・2月に続き3月も順調だった。災害もなく事故もない。インバウンドの外国人も多く、油も昨年より値下がりがりして経営しやすい3月だった。
- 旅館
 - ・消費者は昨年の消費税増税後、明らかに負担が増え、零細企業では給与の増加もなく、家計は厳しくなっている。
- 介護サービス
 - ・介護保険法改正により、収入減。消費税8%の影響や先行き不安により、利用者も減少している。
- 機械設計
 - ・年度末で3月25日までに納入し終わる来期の大きなテーマが、まだ決まっていない。小さなテーマはあるが厳しい。4月中旬まで様子見になる。
- 自動車整備
 - ・年度末となるため、新社会人が車に乗る事を期待したい。年々、車を欲しが若者が少なくなっている気がする。それだけ維持費が高いということ。
- 保険
 - ・市場の運用環境の良さから貯蓄性商品への顧客関心度が高い。
- 理容
 - ・理容業は3月の卒業シーズンなど年度末は売り上げが良い。